

地方創生のためには、地方経済の基盤である農業や漁業等の第 1 次産業を振興し、若者にとっても魅力のある成長産業とすることが、きわめて重要であることは言うまでもありません。そのための施策も、ブランディング、6 次産業化、海外展開、地域商社、観光との連携等々様々に議論されています。

しかし、若者にも魅力ある産業であるために最も重要なことは、創意工夫し挑戦することが報われる、すなわち創意工夫や挑戦にやりがいを感じ、所得の増加に結び付くという期待を持てることだと思います。農業分野についていえば、わが国の農業政策は、農業者保護に重点があり、農業者のアントレプレナーシップに報いるという意図が明確ではなかったように思います。

農業は、本来、若者や女性に関心を向ける「食」「環境」「観光」などと密接に関係し、創意工夫や挑戦が報われるのであれば若者や女性にも魅力ある産業となるはずで、一方、製造業と同じように、現在の農業における創意工夫や挑戦は、技術や専門知識を必要とします。地域の農業に関する「知」を集積し、現場のニーズを汲み取り、農業者の創意工夫や挑戦の種を不断に供給するアグリイノベーション創出のプラットフォームを形成することが重要です。私は、この会議で地方大学がその拠点になりうることを主張してきました。多くの地方国立大学は農学系の学部を持っています（参考資料参照）。

ここで、私が注目する事例をひとつ紹介したいと思います。岐阜大学は応用生物科学部という農学系の学部を持っています。県中央家畜保健衛生所が大学構内に移転し、平成 29 年度より業務開始予定です。また、平成 30 年度末には県食品科学研究所（仮称）が大学構内に竣工予定だそうです。

この事例は、現場の知と大学の知を集積、融合させ、アグリイノベーション創出の拠点となりうる注目すべき取り組みだと期待しています。もちろん、こうした産業振興の公的機関や公設試等と大学とが空間的に集積しただけではイノベーションは生まれません。知を融合させ、そこから生まれる新たな価値を実現する仕組みづくりと運用が重要です。しかし、地方大学にこうした知の集積をつくることは、地域発イノベーション創出に、大きなキッカケをもたらすと期待しています。文部科学省も地方大学のこうした動きを積極的に支援して頂きたいと思います。

参考資料(山本眞樹夫)

農学系国立大学

北海道大学	農・獣医・水	帯広畜産大学	畜産	岩手大学	農	東北大学	農
弘前大学	農学生命	東京大学	農	東京農工大学	農	東京海洋大学	海洋科学
千葉大学	園芸	茨城大学	農	宇都宮大学	農	信州大学	農
新潟大学	農	山梨大学	生命環境	岐阜大学	応用生物	名古屋大学	農
静岡大学	農	三重大学	生物資源	京都大学	農	神戸大学	農
山口大学	農・共同獣医	鳥取大学	農	島根大学	生物資源	岡山大学	農
広島大学	生物生産	愛媛大学	農	香川大学	農	高知大学	農
宮崎大学	農	鹿児島大学	農・共同獣医	九州大学	農	長崎大学	水産
佐賀大学	農	琉球大学	農				